

令和2年度始業にあたって

今日5月25日は、若高の新入生を迎えて、今年度初めて、全校生徒がそろ
う日です。しかし、同じ学び舎にいながらいつものように全員が体育館で集
まることができません。新しく来た先生も紹介したいし、転勤になった先生
方の若高への思いも皆さんに聞いてもらいたいのですがそれができません。
私も放送でしか皆さんにお話ができないこと、本当に残念に思います。世界
中に広まった新型コロナウイルスが、改めて怖い存在であるということを実
感しています。

実は100年前にも同様なことが起こり、この日本でも2年間で40万人
近くが亡くなりました。現在の人口からすると100万人以上が亡くなる計
算になります。日本中の学校の休校が続き、この若松においても多くの死者
が出たそうです。当時のウィルスと今回のウィルスに関しては病原体自体の
性格は違っても感染の広がり方はとても似ていて、第2波がやってくる可能
性がとても高いといわれています。100年前に比べれば衛生面や医学は向
上しているものの、個々人の予防という概念の必要性は全く変わりません。
そこで国が新しい生活様式を示しました。今後当分の間、皆さんにマスクの
着用や手洗いに加えアルコール消毒を行うよう指導したり、人と距離をとる
ことやおしゃべりを控えてもらうなど、学校生活のあらゆる場面で多くの我
慢を行ってもらうことになります。

また、部活動においても多くの制約を強いることになりました。結果とし
て運動部の対外試合中止や文化部のコンクール中止などこれまでの努力を披
露する場を提供できないことに、日頃指導してくださっている先生方も苦し
んでいます。特に3年生は待ち望んでいた公式試合を経験することなく部活
動引退となる人が出てくるでしょう。

長い人生を経れば、皆さんが努力した時間や内容は絶対に無駄にならず価値の高いものであったことを実感することになるのですが、今はそう感じることは難しいでしょう。どうかその悔しさを絶対に忘れずにいてください。そのことが人として自分自身を成長させ、気持ちを切り替える強い力をもたらすはずです。

そこで、皆さんに伝えたいのはこういうときこそ学び中心の生活にしてほしいということ。人生の中で脇目も振らず勉強をする時期は絶対に必要です。本気で勉強に取り組めば一月半の遅れなどすぐに取り戻せます。今年の皆さんの学校生活のテーマを「緊張と感動」とします。新しい生活様式を身につけたり、遅れた学習を取り戻すために緊張感のある学校生活を送ってください。その上で皆さんが学びにおいてそれぞれの力を尽くした先で、人生を豊かにする知識向上・進路獲得など、必ずや大きな感動を得られるよう、私たち教職員は教え導くことを約束します。どのような大不況が来ようと真剣に学んだ人は、最後には生涯を託せる職業を必ず勝ち取っています。

今、この平和な日本で学校生活さえままならず、安全に暮らすことがこんなにも難しいことなのかということを感じています。しかしながら、これまでもあらゆる困難をこの国も世界も知恵や互いが協力することで乗り越えてきました。今回のこの困難も程なく乗り越えることになるはずで

す。

「緊張と感動」まさしく皆さんがこのテーマに沿って学校生活を送ってくれば、必ずや今の困難を乗り越え、人生を振り返ったとき、「あの大変な高校生活があったらこそ今がある」といえるよう、各自の努力を望みます。

令和2年5月25日
福岡県立若松高等学校
校長 小山 繁